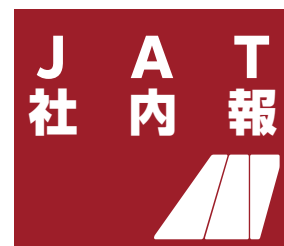


日本エアテック 社内報



2023年 春号

発行：日本エアテック 企画管理部

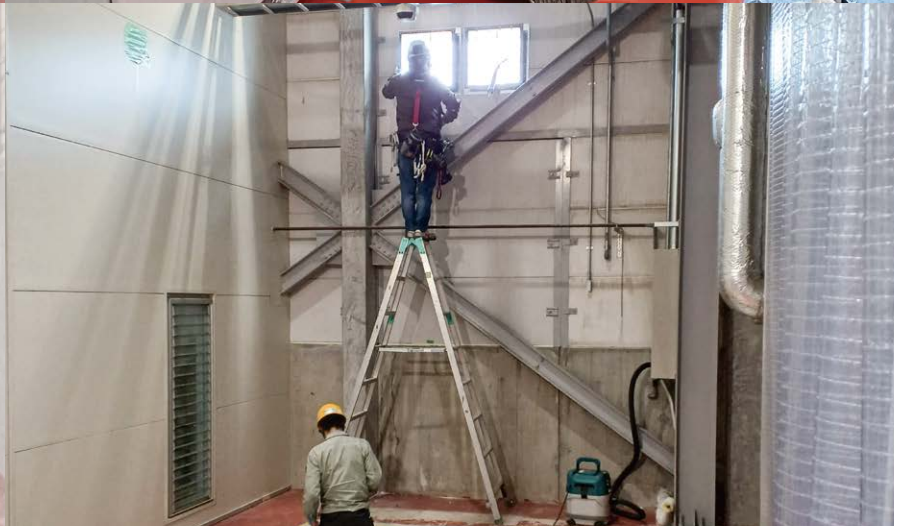


日本エアテック社内報



2023年
春号

【発行】
日本エアテック
企画管理部



キーマンズ・インタビュー

—— 当社の鍵を握るあの人に、聞いてみたいことがある。 ——

KEYMAN'S INTERVIEW

日本エアテックが新たに挑戦するFAN HUB(ファンハブ)塗装。今回のキーマンズ・インタビューでは、そのプロジェクトで中心的役割を担っている皆様にお集まりいただきました。航空機エンジンの要とも言える部品の重要工程にいかにか挑むのか?ぜひご注目ください。

—まず最初に、FAN HUBとはどのような部品なのでしょうか。

岡本 FAN HUBは航空機エンジンの入口側に付く部品で、タービンシャフトの回転をファンに伝えて回す役目を担っています。推進力を生む各ブレードを固定した上で回る高強度の回転体であり、瑕疵や不具合があるとエンジンの破損に直結する重要部品です。それゆえに要求される品質も高く、完成までの工程数も多いです。

松村 私たちが今回塗装を請け負うことになったFAN HUBが搭載されるのは、PW1100Gという航空機エンジンです。PW1100Gは、民間旅客機で最大の需要が見込まれる120〜200席クラスの最新型機A320neoに搭載の航空機エンジンとなっています。国際共同開発のパートナーとして参画している川崎重工工業様では、今後PW1100Gの生産数の増加が見込まれます。今回のFAN HUB塗装は、これまで川崎重工工業様で行われていた一連の塗装工程を、当社にお任せいた



おかもと たかじ
 (株)日本エアテック 顧問 **岡本 隆治さん**

全て手作業で行います。20ミクロンの均一な塗膜を形成していく、非常に高度な作業です。なので実際の製品に塗装する前に、テストピースを使ってその日の塗装の具合を確かめる必要があります。

—FAN HUBに塗装を施すことで、どのような効果が得られるのでしょうか。

岡本 私たちが塗装するのは固体潤滑剤です。外径側はファンブレードがはめ込まれる溝の部分、内径側はシャフトとつながるスプラインの部



まつむら なおや
 (株)JAT 技術部 部長 **松村 直也さん**

く形でスタートしています。**林** 回転体の製造でもこれだけ重要度の高い部品を担うのは当社でも初めてとなります。

—FAN HUBの塗装には、具体的にどのような工程があるのでしょうか。

松村 まずはアルカリ性溶剤による洗浄です。50キロほどの部品をクレーンで吊り上げ、洗浄槽に浸けていきます。洗浄が完了したら、外径側に無機塗料を塗装し固着するようにベキング(熱処理)。次に内径側に有機塗料を塗装し、乾燥させます。

松尾 塗料の吹き付けやマスキングは、

分に塗布していきます。部品同士が接触する部分の滑りをよくすることで、破損と摩擦・摩耗を防ぎます。

—FAN HUB塗装において、困難なポイントやこれらの課題はありますか。

林 これまで川崎重工工業様で行われていた一連の技術とノウハウを吸収&実践していくかどうかが、最初の課題と言えるでしょう。

松村 最初に川崎重工工業様で作業の様子を見学した際は、正直圧倒されました(苦笑)。私たちがこれまでやってきて

ない工程があったというのもありましたが、製品の形状を見れば一目で重要かつ高価なものだと分かったので、これはミスできないぞと気が引き締まりました。また川崎重工工業様ではオペレーションごとに職場を変えています。当社ではそれらを一部習得していかねばいけない難しいもあります。

岡本 要求される管理基準に則った設備も新しく用意しなくてはなりません。例えば塗装ブースは温度・湿度を管理しなくてはならず、今回のために無機塗装ブースの新設を行います。他にもアルカリ洗浄槽や純水の製造装置、アルカリ洗浄液用の廃液処理装置などを新たに導入します。設備はほぼ無い状態からのスタートです。

—今後の生産スケジュールについて教えてください。

松村 まず4月から約2ヶ月間、生産部の松尾さんに川崎重工工業様に出向してもらい、一連の工程を習得してきていただきます。その間社内では設備の準備を進め、7月中には全ての設備が整う予定です。その後は松尾さんを中心に試加工や各種テスト、顧客への申請を行います。来年2月半ばには初回品の納品を予定しています。その初回品に顧客からの承認が下りれば、来年4月より量産をス

スタートできる見込みです。量産は月平均50台の予定なので、1日2〜3台のペースで完成させていくことになるでしょう。

松尾 会社としても初めての挑戦なので、今は分からないことだらけですが、まずはノウハウをしっかりと習得して実践していけるようにしたいです。

—今後は松尾さんを中心に生産プロジェクトが進んでいくのですね。量産体制の構築には、上長の林さんが果たす役割も大きいかと思えます。

林 そうですね。まずは松尾さんに学んでみてもらうところからのスタートですが、体制構築や設備管理などはしっかりとフォローしていきたいです。上手く製品が流れるよう、チーム一丸となって取り組んでいけたらと思っています。

松尾 どの工程も高い技術が要求されるため、作業者の力量が非常に重要になります。塗装の大ベテランの先輩の力を借りつつ、一緒に頑張っていけたらいいですね。

松村 信頼できるお二人なので、安心して任せられます。生産技術としては頼もしい限りです(笑)。



はやし こうじ
 (株)JAT 生産部 生産一課 課長 **林 幸司さん**

TOPICS ランドセル贈呈式

2月4日(土)、ウイズ明石で「ランドセル贈呈式」が行われました。

当社で働く従業員の「今年新一年生になるお子様」が対象で、今年は男の子2名、女の子3名の新一年生と、そのご家族を合わせた10名が出席されました。

最初は緊張していた子供たちですが、自分たちの選んだランドセルを渡されて背負った時は嬉しそうな表情になり、その後のインタビューでは子供らしい回答もあり、

終始和やかな雰囲気での贈呈式となりました。

新一年生のお子様たちには、小学校入学に胸ふくらませた気持ちを忘れずに、元気に楽しく6年間学校に通ってほしいと思います。

また、多くを学んで健やかな成長をされますよう、これからも温かく見守っていきたくと思います。

本当におめでとうございます。



まつお きみのり
 (株)JAT 生産部 生産一係 班長代理 **松尾 公範さん**